

民俗学者竹田聴洲の撮影した 京都の念仏系民俗芸能



佛教大学
公式キャラクター
「ぶったん」

准教授 齊藤 利彦

はじめに

近年、取り組んでいる研究

○昭和30年代に竹田聴洲が行なった、京都の念仏系民俗芸能の映像記録撮影に関する実態解明。

研究成果

- ①芸能史研究における映像記録撮影の系譜を明らかにした。
- ②同時に竹田民俗学のなかに、映像民俗学的要素を見出した。

○竹田の撮影した映像記録＝竹田フィルムと表現する。【図1】



【図1】

竹田聴洲とは

- 大正5年(1916)1月29日～昭和55年(1980)9月6日。享年64。【図2】
- 民俗学者。文学博士。同志社大学文学部教授を経て、佛教大学文学部教授。
- 従来の墓制・同族祭祀・宮座研究をさらに発展。
- 浄土宗寺院の開創伝承を収録した『蓮門精舎旧詞』の分析。地域の無名寺院を歴史民俗学的、宗教社会史的に考究。晩年は人類学を志向。『竹田聴洲著作集』全9巻(国書刊行会)。
- ⇒竹田の研究業績のなかで、民俗芸能の映像記録撮影調査はほとんど知られていない。



【図2】

日本の学術における映像記録撮影の流れ

- 大正元年(1912)、フランスの実業家アルベルト・カーンが派遣した映写技師が撮影した金剛流の能五曲や京舞など。
- その後も、民俗誌的映像記録撮影はヨーロッパの人々の手によってなされる。
- 日本人の手による映像記録撮影の最初＝諸説あり。
- ⇒大正14年(1925)、北海道帝国大学の動物学者八田三郎「白老コタンのアイヌの生活」モノクロームフィルム35ミリ・4500フィート(55分)といわれる。
- 昭和ひとケタ代から日本人による映像記録撮影は本格化。3つの潮流
 - ①渋谷敬三とアチック・ミュージアムの面々による民俗学・人類学系統。
 - ②町田嘉章らの音楽学や児童演劇研究系統。
 - ③西田直二郎の行なった人類学や民族学、民俗学に接近した歴史学系統。
- 竹田聴洲の映像記録撮影は③の西田の系譜を引く。

竹田聴洲の撮影した京都の念仏系民俗芸能

- 昭和32年(1957)4月～同36年(1961)8月までの4年間。
- 同志社大学人文科学研究所「京都に於ける社会発展の諸条件の研究」班より研究委嘱。

○京都市中の念仏系民俗芸能を映像で記録。【図3・4】

○内訳は【表1】を参照のこと。

【表1】竹田聴洲撮影 京都の念仏系民俗芸能内訳

撮影年月日	場所	映像タイトル	規格	映像時間	制作年代	撮影芸能種別
和33年6月20日	鞍馬寺	竹切り祭	8ミリ	10分	1958年	竹切り祭
和33年8月15日	壬生・中堂寺	六斎(廻籠)	8ミリ	約20分	1958年	六斎念仏
和33年8月16日	千本閻魔堂	えんま堂六斎(散打)	8ミリ	約35分	1958年	六斎念仏
和33年8月23日	壬生寺	壬生六斎(一散打)	8ミリ	約35分	1958年	六斎念仏
和34年5月26日	千本閻魔堂	閻魔行住●	8ミリ	約15分	1959年	大念仏狂言
和34年5月26日	千本閻魔堂	花折	8ミリ	約35分	1959年	大念仏狂言
和34年5月26日	千本閻魔堂	千人切●	8ミリ	約12分	1959年	大念仏狂言
和34年11月12日	亀岡市	村の葬式(浄土宗)	8ミリ	約8分	1959年	-
和34年11月13日	空也堂	鉢叩き念仏	8ミリ	約8分	1959年	鉢叩き
和35年2月3日	壬生寺	壬生寺 節分会	8ミリ	約8分	1960年	-
和35年4月29日	壬生寺	壬生狂言 湯立	8ミリ	約29分	1960年	大念仏狂言
和35年4月29日	壬生寺	壬生狂言 ほららく(前篇)	8ミリ	約27分	1960年	大念仏狂言
和35年4月29日	壬生寺	壬生狂言 ほららく(後篇)	8ミリ	約25分	1960年	大念仏狂言
和35年4月29日	壬生寺	壬生狂言 紅塵●	8ミリ	約4分	1960年	大念仏狂言
和35年4月29日	壬生寺	壬生狂言 権●	8ミリ	約7分	1960年	大念仏狂言
和35年4月29日	壬生寺	壬生寺 おしよ夜(壬生狂言中)	8ミリ	約3分	1960年	大念仏狂言
撮影不明4月	今宮神社	やすらい	8ミリ	-	-	やすらい

●はデジタル化済



【図3】



【図4】

竹田フィルムと撮影方法

- 8ミリ白黒フィルムによる映像撮影。
- 映像撮影と録音は別個に行ない、ソニー製8ミリフィルムを用いてエルモ映写機で撮影。
- 上映の際は、映像テープと録音テープを同調させる方法。
- フィルムのタイトルと録音テープのスタートを合わせて同時に上映させるといった具合に、映像と録音が整うよう工夫。

竹田フィルムの特徴

- 昭和33年～同35年にかけて集中的に調査・撮影。
- 六斎念仏・大念仏狂言といった京都の念仏系民俗芸能を撮影。
- 三大大念仏狂言のひとつ、千本えんま堂大念仏狂言の撮影が特筆できる。

竹田フィルムと千本えんま堂大念仏狂言

- 昭和34年5月24日撮影【図5・6】
- 現行の千本えんま堂大念仏狂言【図7】
- 千本閻魔堂狂言堂は昭和49年(1974)5月、不審火によって全焼。
- 竹田フィルム：白黒ではあるが、焼失前の衣装によって演じる姿が映像として記録。
- 全焼前の狂言堂とえんま堂狂言の姿を伝える、貴重かつ大きな意義をもつフィルム。



【図5】



【図6】



【図7】

まとめとして

- 竹田の学問業績で埋もれている調査研究成果の一端を提示。
 - ①一時期ではあっても、無形の動態＝芸能(民俗芸能)を映像記録撮影した竹田。
 - ②竹田民俗学における映像民俗学的要素の発見。
 - ③その背景＝修学過程や人間関係＝西田直二郎や京都文化史学の存在。
 - ④多彩で特異な民俗学者竹田聴洲という存在の明確化。

【参考文献】

北村皆雄「渋谷敬三 映像の系譜と花祭」(『芸能史研究』206号、2014年)
 齊藤利彦「西田直二郎とヨーロッパ留学」(『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』第4号、2009年)
 齊藤利彦「京都文化史学派と民俗芸能撮影の系譜」(『芸能史研究』第206号、2014年)
 齊藤利彦「竹田聴洲と京都の念仏系民俗芸能の映像記録撮影について」(『佛教大学宗教文化・ミュージアム研究紀要』第10号、2014年)
 山路興造「無形文化遺産の記録保存における歴史と課題—無形民俗文化遺産を中心に—」(『日本印刷学会誌』53巻2号、社団法人日本印刷学会、2016年)

新聞記事



刊行物



研究テーマ

- 上方歌舞伎の歴史的研究
- 無形文化遺産の映像記録撮影の学術的研究

最近の業績

- 江戸時代の上歌舞伎と座本(『歌舞伎 研究と批評』58号 2017年4月)
- 竹田聴洲のみた祇園祭—昭和35年の調査を中心に—(『芸能史研究』218号 2017年7月)

専門分野

日本芸能史 日本文化史

科学研究費採択

近世芸能興行の「興行権」と動産所有に関する相関的研究(若手研究B)
 近現代上方歌舞伎の伝承に関する基礎的研究(若手研究B)

受賞実績

平成24年度歌舞伎学会奨励賞 2012年
 第1回佛教大学学術奨励賞 2003年



<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/teachers/detail/242/>



佛教大学